

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和01年08月07日

計画の名称	中心市街地のにぎわいの再生と安全安心な歩行空間を確保するためのまちづくり（防災・安全）												
計画の期間	平成27年度～平成30年度（4年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	幸田町												
計画の目標	幸田駅前一体は、かつては町の中心市街地として賑わいをみせたが、現在は、幹線道路に歩道がないなど都市基盤は脆弱であり、老朽化した建物が密集する災害に弱い地域である。そのため、JR幸田駅前の2.9haで土地区画整理事業を行うことにより、幸田駅へのアクセスや通学路である幹線道路への歩道設置・無電柱化と、区画道路へのグリーンベルト設置により、安全で安心した道路（歩行空間）を整備する。また、土地利用としては、商業系利用を推進することにより中心市街地のにぎわいの再生へと繋げる。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	48	A	44	B	0	C	4	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	8.33	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H27当初)	中間目標値	最終目標値 (H30末)
1	幸田駅前の交差点における歩行者、自転車の通行量を増加させる 幸田駅前の交差点の歩行者と自転車の通行量について調査する	1858人/日	人/日	1890人/日
2	幸田駅前土地区画整理事業地内の通学路安全対策率を増加させる 幸田駅前土地区画整理事業地内の通学路の安全対策率を調査する 通学路安全対策率 = 歩道整備又はグリーンベルト整備延長/通学路延長 (425m)	0%	%	100%
3	幸田駅前土地区画整理事業地内の商業土地利用面積を増加させる 幸田駅前土地区画整理事業地内の商業土地利用状況について調査する 商業土地利用面積の増加 = 商業土地利用の敷地面積/区画整理区域内の宅地面積	16%	%	25%
4	幸田駅前土地区画整理事業地内のイベント出店数を増加させる 幸田駅前土地区画整理事業地内のイベント出店数を調査する イベント出店数 = 地区内道路（区画道路）で毎月開催（5と10のつく日）の市の出店数	1店	店	3店

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H27	H28	H29	H30	H31			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	幸田町	直接	幸田町	-	-	幸田駅前土地区画整理事業(1-A-1)	都市再生区画整理 A=2.9ha	幸田町						44	-	
											小計						44		
											合計						44		

C 効果促進事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H27	H28	H29	H30	H31				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
市街地整備事業	C13-001	市街地	一般	幸田町	直接	幸田町	-	-	区画道路歩行空間整備事業(1-C-1)	グリーンベルト L=440m	幸田町						4	-		
		幸田駅前土地区画整理事業と一体的に生活道路である区画道路へグリーンベルトを設置することにより、市街地の交通面での安全性を向上させ、安全安心な歩行空間を確保する																		
	C13-002	市街地	一般	幸田町	直接	幸田町	-	-	街路灯整備事業(1-C-2)	街路灯20箇所	幸田町						0	-		
		幸田駅前土地区画整理事業により幹線道路は無電柱化されるため、安全面に加え中心市街地の景観も考慮し街路灯を整備することで賑わいと安全安心な歩行空間を確保する																		
											小計						4			
											合計						4			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 幸田町で実施	事後評価の実施時期 事業終了後（令和元年度）
	公表の方法 幸田町のホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	平成30年度末時点の残工事は、2つの都市計画道路のひとつ(都)芦谷高力線と街区公園1カ所のみとなり、建物移転と一定の公共施設整備が完了したことから、以下のとおり安全で安心な道路（歩行空間）の整備や、にぎわいの再生が図られたと考える。 ・(都)芦谷蒲郡線への歩道設置と区画道路へのカラー舗装（グリーンベルト）により、歩行空間の完全性が高まった。【安全で安心な道路（歩行空間）整備】 ・新たにできた店舗やリニューアルされた店舗の集客により、にぎわいの効果が生じている【にぎわいの再生】
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<p>1. 今後は、R3年度（H33年度）の補助事業完了に向け、都市計画道路（(都)芦谷高力線）と街区公園の整備を図ることとなりますが、安全で安心な道路の実現に向けもっとも重要なのは、(都)芦谷高力線の整備となります。</p> <p>(都)芦谷高力線の整備により期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校への通学路である都市計画道路（(都)芦谷蒲郡線）との交差点が完成することにもなるため、通学路の交通安全対策が強化される。 ・(都)芦谷蒲郡線と併せ、歩道への街路灯設置を予定しているため、夜間の歩行空間の安全化が図られる。 <p>2. イベント出店数について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から地元で行われている市の出店数増加は達成できなかったが、区画整理区域内では新たにマルシェが定期的開催され定着してきている。今後はそれぞれ個性あるイベントが継続的に行われるように、公共施設整備の推進に努めたい。 	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	指標（幸田駅前における歩行者自転車交通量）		
	最終目標値	1890人/日	目標を達成した
最終実績値	2755人/日		
2	指標（通学路の安全対策率）		
	最終目標値	100%	幸田駅前の交差点の整備まで完了していれば目標を達成できた。交差点の整備には交差する県道（（都）芦谷高力線）の工事着手が必要であり、R1及びR2で整備予定。
最終実績値	94%		
3	指標（商業土地利用面積の増加）		
	最終目標値	25%	目標を達成した
最終実績値	29%		
4	指標（イベント出店数の増加）		
	最終目標値	3店	H27、H29及びH30に、年一回地元の農産物を扱った朝市（旬果集稲）などを行ったが、指標は、地元で昔から毎月5と10のつく日に行っている市に限定したため、その出店数の増減はない結果となった。対象とした市と区画整理内にある商業施設で毎月15日に行うマルシェとの共同実施も模索したが、それぞれ客層などが異なり、単純に一緒にすれば賑やかになるというものではなかった。
最終実績値	1店		